



Sports & Culture Tourism Award 2020

スポーツ 文化 ツーリズム アワード 2020



～スポーツ及び文化芸術の融合による観光の活性化に向けて～

受賞取組紹介

Overview of Award-Winning Initiatives





スポーツ文化ツーリズムアワードとは

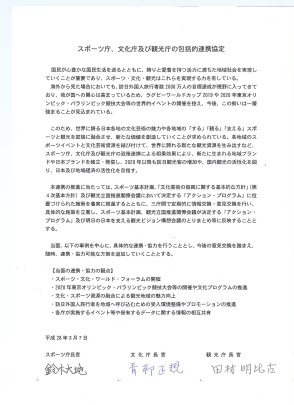
「3庁連携」に基づき、スポーツ文化ツーリズムの推進に寄与する先進的な取組や今後スポーツ文化ツーリズムの実現を目指す取組について、過去の実績を含めて発掘し、今後の観光の活性化を図るため、平成28年度から「スポーツ文化ツーリズムアワード」として優秀な取組を選定・表彰しています。



3庁連携とは

スポーツ庁、文化庁及び観光庁は、平成28年（2016年）3月に「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」を締結しました。

各地域のスポーツイベントと文化芸術資源を結び付けて、世界に誇れる新たな観光資源を生み出すなど、各庁の政策連携による相乗効果により、新たな生まれる地域ブランドや日本ブランドを確立・発信し、訪日観光客の増加や、国内観光の活性化、地域経済の活性化を目指して取組を行っています。



3庁連携シンボルマークについて

【作成者】

永田 康二氏（グラフィックデザイナー）

【コンセプト】

3庁を示す3つの輪が水引で結ばれています。

結端に富士山が出現し、笠雲がかかった様にも見え、「富士に雲」で国内観光発展の吉祥と3庁の結束力をイメージしています。



スポーツ文化ツーリズムアワード 2020 有識者委員会

■委員（6名）

- 内田 有映 アソビュー株式会社 執行役員
- 片野 篤 公益社団法人日本観光振興協会 観光地域づくり・人材育成部門 観光地域マネジメント部長
- 三枝 稔 学校法人先端教育機構 専務理事
- 下村 彰男 國學院大学 研究開発推進機構・新学部設置準備室 教授
- 高井 晴彦 一般社団法人日本旅行業協会 (JATA) 国内・訪日旅行推進部 部長
- 中山 哲郎 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 (JSTA) 事務局長

(※敬称略、五十音順)



観光庁長官 蒲生 篤実

「スポーツ文化ツーリズム 2020」における各賞を受賞された皆様におかれましては、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響により、観光関連産業に深刻な影響が生じている中で、5回目となる「スポーツ文化ツーリズムアワード 2020」においては、過去最多となる48団体からの応募があり、地域の皆様の観光振興へ向けた熱意を感じているところです。

今般「スポーツ文化ツーリズム賞」を受賞された2つの取組は、自然・文化・歴史等の地域資源を存分に活用し、既存概念にとらわれず、その土地ならではの魅力を楽しむための工夫がなされており、また、旅行者だけでなく地域の人々の心にも活力を与えるものです。

富士山を五合目から下るツアー「富士下山」は、通常「登る」ものである富士山を「下る」という発想の転換により、夏のみ富士登山に依存していた富士山観光シーンに新たな需要を創出している点が大変独創的であります。

また、三重県尾鷲市のウォーキング大会である「おわせ海・山ツーデーウォーク」においては、世界遺産である「熊野古道伊勢路」のほか、登山道やリアス式海岸を用いた多様なコースを整備するなど、地域資源を活用しているだけでなく、この取組を行っている尾鷲市は、市としてもウォーキングの推進に精力的に取り組んでおり、地域におけるスポーツ振興を図っておられます。

観光庁としては、今後もこのようなスポーツや文化芸術等を観光に活用した素晴らしい取組が多く創出され、訪日観光客の増加や国内観光の活性化に繋がることが期待しております。

結びに、観光関係者の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



文化庁長官 宮田 亮平

「スポーツ文化ツーリズム 2020」を受賞された皆様、おめでとうございます！

今年度はコロナ禍で観光需要が厳しい中、皆様からの精力的な応募により、非常にバラエティに富んだ取組が多く集まりました。

特に文化観光に着目した賞である「文化ツーリズム賞」を受賞された2つの取組は非常に高く評価できるものでした。

「日本遺産北前船を通じた各地の文化資源活用と観光振興」の取組については、文化庁の推進する日本遺産事業を活用しつつ、一つの場所に留まらない広範囲での地域連携を活かした点が最大の特徴であり、長年に渡る取組の実績もあります。

また、「重要文化財の保存修理工事を観光資源化『道後温泉本館×火の鳥 道後 REBORN プロジェクト』」の取組については、現在修復中で見られない道後温泉の施設を、あえてその修復中の姿を見せて楽しめるよう工夫している点が、ピンチをチャンスに変えるという今の世の中の状況にマッチした取組となっています。

更に、今年度は特別賞として、「日本遺産」と「食文化」に注目した「日本遺産ツーリズム賞」と「食文化ツーリズム賞」を新たに設け、それぞれの観点においてユニークな取組が評価され、複数受賞となりました。

このように皆様の取組はその実力と将来性が高く評価され、今回の受賞に繋がったものです。これからも文化観光の振興という観点から、更なるアイデアや実行力を如何なく発揮していただけるよう、文化庁としても大いに期待しております。

今回の受賞を契機に、皆様方の取組を通じて、各地での文化観光の振興を目指す方々の励みとなり、ますます御発展されることを心よりお祈り申し上げます。



スポーツ庁長官 室伏 広治

「スポーツ文化ツーリズムアワード 2020」受賞団体の皆さま、この度は誠にありがとうございます。5回目を迎えた本アワードにおいても、全国各地から創意工夫に富んだ多くの取組をご応募いただきました。

「スポーツ」という新たな観光の切り口によって、誘客ターゲットの拡大、幅広い関連産業の活性化、交流人口拡大への寄与等が期待されており、この度の「スポーツツーリズム賞」においても、地域の魅力に光をあてた、オリジナリティのある2つの取組が受賞されました。

有限会社エクストレモの「アドベンチャーレース」の取組は、地域特有の自然環境を活かしたアウトドアスポーツとして、環境保全の取組や、地域との連携、今後の将来性などが高く評価されています。また、宇都宮市の3人制バスケットボール「3×3」を活用した取組は、街なかで開催可能なアーバンスポーツという特性を上手く活かし、地元の文化資源や各種イベントを複合的に組み合わせた大変魅力のある内容です。

さらに、本アワードにおいてはスポーツ庁で重点的に推進している「武道ツーリズム」に関する特別賞を新たに設けました。受賞された沖縄空手ツーリズムと村山市サムライ体験（居合道）は、日本でしか体験できない「武道ツーリズム」を牽引する先進的な取組です。

今後も日本各地の地域資源を最大限に活かしながら新しい旅の魅力を作り出す「スポーツ文化ツーリズム」の取組が広がり、各地域の活性化に結び付いていくことを期待しております。



審査ポイント

独創性

先進的な魅力づくりや、独自のブランディングに関して工夫しているか。

発信力

知名度を上げるためのPR手法や情報発信の工夫、観光地への注目度・好感度の向上のために工夫しているか。

経済効果

顧客満足度やリピート率の向上・長期滞在につながる工夫が見られ、日本及び地域への大きな経済効果の実績又は見込みがあるか。

地域性

地域独自の資源・魅力を活かし、地域住民の生活に配慮しつつ、地域経済活性化への貢献に寄与しているか。また、地域住民と協同することによる地域一体的な取組であるか。

安全性

安全性が十分に確保され、参加者や旅行者の事故を未然に防ぐ体制であるか。リスクマネジメント、ユニバーサルデザインに関する取組の工夫があるか。また、新型コロナウイルス感染症の防止策が講じられている、または今後講じられるか。

将来性

今後の発展的なビジョンが明確になっており、将来性が見込まれるか。また、新型コロナウイルス感染症の防止策を含めて他地域への横展開が可能か。



スポーツ文化ツーリズム賞

おわせ海・山ツデーウォーク実行委員会・尾鷲市

熊野古道伊勢路と尾鷲市の歴史文化を守り活用する
「おわせ海・山ツデーウォーク」



取組概要

聖地をつなぐ祈りの道「熊野古道伊勢路」は、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録を受け、これを契機として、同年第1回大会を開催。次回で17回目。

全国各地からウォーカーが集まり、海と山とはぐくまれた尾鷲市の、歴史の道を歩む。

実行委員会による定期的なコース整備、保全活動により熊野古道のレガシーを後世に伝える役割も担う。スポーツイベントにとどまらない、歴史・文化・観光が融合したウォーキング大会。

参考 URL

https://www.city.owase.lg.jp/contents_detail.php?co=kak&frmlid=17505



評価ポイント

- 地域の自然を活かしている。
- ウォーキング協会との連携や、スポーツ振興への寄与、文化の活用、経済効果、将来性など、実績・総合力で最高評価。
- 地域との繋がり、結びつき等含めて非常にバランスの良いイベント。



スポーツ文化ツーリズム賞

富士山ネイチャーツアーズ

富士下山 ～富士山の知られざる魅力に会う自然旅行～



取組概要

「富士山の魅力は五合目より下にその七割がある」というツアーコンセプトを基に、富士山を下って楽しむオリジナルエコツアー。五合目まで車で登ることが出来る富士山ならではの地域性を持ち、代謝による体力消耗が少ないことから、体力の強弱、老若男女問わず、疲れることなく五合目より下に広がる豊かな自然や、旧登山道にひっそりと残された富士登山信仰の歴史文化の史跡をゆっくりと楽しみ、学ぶことが可能。富士山に新たな観光様式を取り入れるとともに、自然、歴史文化の保全と健康増進に寄与する持続可能な新たなツーリズム。

参考 URL

<http://roots-fruits.jp/home.html>



評価ポイント

- 山を下りることをコンテンツ化するという逆転の発想に加え、自然遺産としての富士山を楽しむところがユニーク。
- 新たな旅行需要を生み出しながら、自然環境や歴史文化の保全、健康増進への寄与に貢献している。
- 持続可能なツーリズムとしての発展性に非常に期待。



スポーツツーリズム賞

有限会社エクストレモ

あるがままの自然を活用したアウトドアスポーツ
“アドベンチャーレース”を全国で展開



取組概要

アドベンチャーレースは、3～4名が1チームとなり、様々なアウトドアアクティビティ（トレイルランニング、トレッキング、マウンテンバイク、カヤック、オリエンテーリング）を駆使しながら、チームで協力してゴールを目指していくレース。アウトドアスポーツの愛好者を始め、親子や初心者向けのレースまで幅広く開催しており、多くの人にその地域の自然や人との触れ合いを体感してもらうこと、アウトドアスポーツの裾野を広げることを目標に、地域交流や地域活性に貢献していくということを目的として展開している。

参考 URL

<http://www.a-extremo.com/>



評価ポイント

- 参加者の幅が広く、地域との連携、自然の活用など総合点が高い。
- インバウンドが復興した際には、大きく注目されるジャンル。地域との連携や、単発で終わらない運営を評価。
- 独創性や、地域との繋がりがあり、今まで活用されていなかった中山間地域を含めた中小地域を活用できる将来性を評価。



スポーツツーリズム賞

FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 実行委員会

FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019 の開催

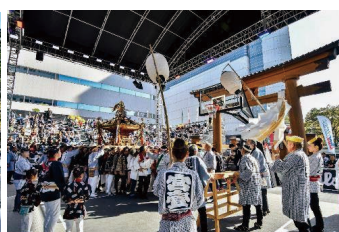


取組概要

FIBA（国際バスケットボール連盟）主催の3人制バスケットボール「3x3」のクラブチーム世界一決定戦「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019」を開催。宇都宮市のシンボルで、9mを超える宇都宮二荒山神社の大鳥居前・バンバ市民広場に特設コートを設置し、大会を開催。宇都宮を代表するイベントである「宇都宮餃子祭り」、「宮の市」、「MIYA JAZZ IN」を同時開催し、宇都宮の魅力を発信。オープニングセレモニーや試合の合間には、宇都宮伝統の宮壺會神輿や居合道のパフォーマンスを実施。

参考 URL

<https://www.3x3exe.com/worldtour/>



評価ポイント

- 独自性、オリジナリティ、地域らしさの観点を評価。
- 従来のコートにとらわれない海外からも注目される舞台設定や、地元のお祭りとの連携など、集客装置としての可能性を評価。
- 国際性があり地域と結びついた取組である。将来性を評価。



文化ツーリズム賞

一般社団法人北前船交流拡大機構

日本遺産北前船を通じた各地の文化資源活用と観光振興 ～ 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～



取組概要

全国各地で、寄港地の連携、文化資源の磨上げ、国内外の旅行者の増加と地域への経済効果波及、地域の活性化を目指す観光フォーラムとして、「北前船寄港地フォーラム」を平成19年より実施。本年度29回目の開催。地元への経済効果に加え、観光資源の掘り起こしと再認識に寄与。

日本遺産構成48市町や日本財団等と協力して、ブランディング、情報発信、経済効果、地域活性化に係る取組を展開。

大手旅行会社協力のもと、日本遺産北前船を巡るツアーを設定・販売している。

参考URL

<https://www.kitamae.org/>



評価ポイント

- 沢山の地域と連携し、一つ一つを大きなイベントに仕立てている点を評価。
- 長年の取組であり、北前船自体の歴史の連続性や北前船によってもたらされた食文化や生活文化がもっと認識されるべき。



文化ツーリズム賞

松山市

重要文化財の保存修理工事を観光資源化 「道後温泉本館×火の鳥道後 REBORN プロジェクト」



取組概要

明治27年改築の道後温泉本館は、125年を超えた今も世界中の人々を魅了する松山市の宝。重要文化財の公衆浴場を営業しながらの保存修理工事は、日本初の取組。未曾有の大災害に備えた工事を乗り越えるため、手塚治虫の「火の鳥」とコラボレーション。文化財工事を「再生への過程」と捉えて物語化し、日本が世界に誇るアニメ文化で情報発信。

工事・営業エリアを分けて、入浴でき、工所用仮設物を「ラッピングアート」として新たなまちのシンボルに仕立て、文化財工事を「再生の物語」として新たな観光資源に転換。

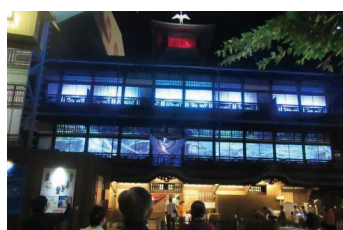
参考URL

道後温泉公式サイト

<https://dogo.jp>

道後 REBORN 公式サイト

<https://www.dogoreborn.info/>



評価ポイント

- アイデアが斬新。ピンチをチャンスに変えるという言葉が今のこのタイミングにふさわしいのでは。
- バックヤードツアーのモデルになるのでは。新しいアニメとの組み合わせが面白い。
- 修復自体を企画に変えるというコンセプトが良い。限定感が出る。



武道ツーリズム賞

Ageshio Japan 株式会社

世界でただ一つ！ 空手発祥地「沖縄」の空手ツーリズム事業



取組概要

世界に1.3億人の愛好家を有する世界最大の武道である「空手」発祥の地「沖縄」で、空手資源・観光資源を融合し、沖縄を訪れる空手家・旅行者を対象に、6ジャンル（空手観光、他武道体験、文化体験等）で合計25点の多様性ある空手ツーリズム商品を開発。

空手発祥の地、沖縄に「空手ツーリズム」という、世界中でも唯一の、新たな観光市場を創出するとともに、沖縄県内の空手・観光業界発展への貢献も目指している。

参考URL

<https://ageshiojapan.com/jp/>



評価ポイント

- 日本発祥の武道ツーリズムの牽引者になりうる取組。
- 空手を通じた世界に広がりのある取組として将来性に期待。
- 高い情報発信力や顧客満足度も非常に評価される。



武道ツーリズム賞

むらやま武道ツーリズム推進協議会

居合道発祥の地でサムライ体験 山形県村山市



取組概要

山形県村山市には日本一社居合神社があり、居合の始祖が祀られている。居合道発祥の地という地域文化を活かした着地型体験プログラム「居合道発祥の地でサムライ体験」。

居合神社の境内に隣接する道場「居合振武館」にて、夢想神伝流居合の形「初発刀」を習い、抜刀術宗家の指導のもと真剣で畳筒を斬る試斬体験ができる。インバウンド訪日客はもちろん、日本人にとっても、忘れがたいエクスペリエンスとなっている。

居合道講師、運営ともに地元を中心に進めており、観光資源や農業体験、他市町との連携を目指している。

参考URL

<https://www.iaidoexperience.com/>



評価ポイント

- 海外に経験者が少ない居合を体験でき、日本独自のコンテンツとして海外へのアピールになる。
- 一般の方に向けたツーリズムコンテンツとして、しっかり磨き上げられている。
- 地域性を活かした着地型体験商品で、文化的理解、身体的理解、エンターテインメント性が上手く融合している。



日本遺産ツーリズム賞

和歌山県和歌山市

日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」をめぐる！日本初のミュージックマラソン「和歌山ジャズマラソン」



取組概要

2001年から実施し、2021年に第20回大会を迎える。マラソンの舞台は日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」。歴史文化を肌で感じながら風光明媚な景色の中を駆け抜けるコース設定。

コース沿道に、ジャズのライブステージを設け、生演奏の軽快なリズムがランナーを後押しし、メイン会場では、特産品を味わえるブースを設置。食文化も味わうことができる。

地元婦人会、自治会、学生等の協力を得、地域一体で盛り上げている。

参考 URL

http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/bunka_sports/1001120/1004393/index.html



評価ポイント

- マラソンとジャズという一見ジャンルが異なる両方の要素を上手く調和させている。
- 地域一体で開催しており、これまで継続した取組を行ってきた。
- 国際交流の取組や広報の工夫なども評価が高い。



日本遺産ツーリズム賞

出羽三山シンフォニー実行委員会

出羽三山の精神文化と山形交響楽団のコラボレーションによるコンサート『出羽三山シンフォニー』



取組概要

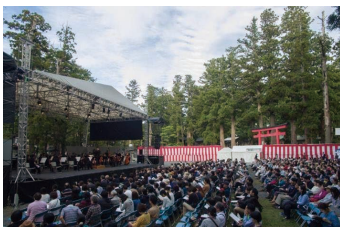
出羽三山が日本遺産に認定されたことをきっかけに、平成28年より実施し、過去4回開催。

出羽三山（三神合祭殿広場）を会場に、山形交響楽団によるフルオーケストラコンサートを実施。屋外でのフルオーケストラコンサートという希少性もあり、本コンサートが組み込まれた旅行商品が造成されるなど、国内外から来場。

コンサート映像（概要版）をWEB配信することにより、日本遺産である出羽三山の魅力を広く国内外に発信している。

参考 URL

<http://www.yamakyō.or.jp/>



評価ポイント

- 精神文化と音楽文化を上手くコラボレーションさせたユニークな取組。
- 日本遺産を通じた地域活性化により、地域の魅力の再発見や、地元への愛着の醸成に繋がることが期待され高評価。



食文化ツーリズム賞

TOYOURA 世界ホタテ釣り協会

『TOYOURA 世界ホタテ釣り選手権大会』 ～ The world scallop fishing Championships ～



取組概要

北海道豊浦町は、噴火湾における「ホタテ養殖発祥の地」として50年以上の歴史がある。そのホタテを活用した世界大会として、公式ルールなどを決め、平成21年より毎年3月に個人戦（現在までに12回開催）、秋には団体戦やジュニア大会（現在までに各7回開催）を実施。1試合の制限時間を3分間とし、専用の釣竿で水槽内の活ホタテが何枚釣れるかを競う。

大会開催だけに限らず全国各地へのイベント出張や、教育旅行・インバウンド・インセンティブツアー等の体験プログラムとして同競技を普及すべく、様々な活動を行っている。

参考 URL

<https://toyoura-feel.com/event/wsc/>



評価ポイント

- 一目見て、自分もやりたいと思えるユニークな取組。
- 豊浦町の特色を上手く活かしたイベント。運営努力もみえる。
- 老若男女・国籍も問わず皆が気軽に楽しめるご当地競技として発展している。



食文化ツーリズム賞

日本酒蔵ツーリズム推進協議会

「晴れの酒、花の宴。」日本酒蔵ツーリズム推進事業



取組概要

日本酒をはじめ日本産酒類の消費量が減少しているなか、文化財を人が集う場として活用し、最新ビジュアル技術を駆使し、訪日客など内外に発信することにより、日本の酒の復興（ルネッサンス）を目指す。旧醸造試験所第一工場（通称：赤煉瓦酒造工場）では、重要文化財である赤レンガ倉庫の見学、醸造文化である酒造りの理解、食とのマリアージュ、伝統芸能である酒をテーマにした落語など、日本産酒類とそれに関連する文化をテーマにしたイベントを開催。貴重な文化財の認知拡大や酒食をはじめとする日本文化の周知、さらに「日本酒蔵ツーリズム」の認知拡大に継続的に取り組む。

参考 URL

<https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/>



評価ポイント

- 各地域ともうまく結びつきながら様々な事業を展開している。
- 酒類の文化は芸能や郷土食など幅広い文化と関連しており、これらの文化の保存・活用にも資することを期待。
- 昨今の海外における日本のお酒に対する評価も高くニーズがある。



食文化ツーリズム賞

一般社団法人しもきた TABI あしすと

ジオ・ガストロノミー・ツーリズム



取組概要

国定公園に指定され、日本ジオパークにも認定される下北半島の自然。

この自然・景観(ジオ)の独自性、また、ジオにより恵まれた食資源・食文化の独自性(豊かさ)を、シンボリックに伝えるため、特異なジオ環境下で、下北の食材をふんだんに使ったダイニングイベントを「下北ジオダイニング」と銘打って開催。

開催により、下北地域の独自性を明確化するとともに、広報により、その魅力を発信している。

参考 URL

<https://gururin-shimokita.com/>



評価ポイント

- 地域性を活かした本質的なところについており、「ストーリー」としての見せ方もうまい。
- ツーリズムとしての建付けや食の考えもしっかりしている。
- 広報戦略を行いながら地域ブランディング推進に貢献している。



スポーツ文化ツーリズムアワード過去の受賞団体一覧

スポーツ文化ツーリズム賞

2019
受賞団体

- 日光トレイルランニング実行委員会
『日光国立公園マウンテンランニング大会』
- 剣道体験ツアー SAMURAI TRIP (運営: 株式会社パークフォーアス)
『剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】』

スポーツツーリズム賞

- 小出雪まつり実行委員会
『魚沼国際雪合戦大会』
- 白山ジオトレイル実行委員会
『白山ジオトレイル』

文化ツーリズム賞

- 「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議
『忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり』
- 一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構
『「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に!』

マイスター部門 入賞

2017
受賞団体

- びわ湖パノラマウォーク実行委員会
おごと温泉を拠点とした世界文化遺産・日本遺産を繋ぐ「おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク」
- 株式会社 南都
沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

チャレンジ部門 入賞

- 大阪城トライアスロン 2017 大会組織委員会
大阪城トライアスロン 2017 / NTT ASTC トライアスロンアジアカップ
- 株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン
日本初! 雪上ゴルフ体験ウィンターゴルフ IN 北海道 (株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン)
- 香川県土庄町
小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

2016年の実施以来、以下の団体がこれまで受賞しております。

マイスター部門 入賞

2018
受賞団体

- NPO 法人 きらり水源村
「カヤックで農業用水路を下る! 「イデベンチャー」」
- 一般社団法人 日本スポーツ雪かき連盟
「国際スポーツ雪かき選手権」
- 一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン
「地域の魅力・文化を引き出しサイクルツーリズムで通年誘客を実現するツール・ド・ニッポン」

チャレンジ部門 入賞

- 株式会社 サムライブロデュース
「十勝ナイトリパークルーピング」
- 一般社団法人 山形バリアフリー観光ツアーセンター
「世界一自由な空へつばさに乗って行こう 南陽は空もバリアフリー 空飛ぶ車椅子体験」

大賞

2016
受賞団体

- 瀬戸内しまなみ海道振興協議会
「サイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」を核としたサイクルツーリズム」

スポーツ長官賞

- 兵庫県姫路市
「世界遺産姫路城マラソン」

文化長官賞

- 「青森県十和田市
「スポーツ流鏝馬大会」



アワードの受賞効果を本音で語る！ 沖縄の受賞3団体が語る、当アワードの魅力と今後の展開

2018年に一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロ主催で行われた「稼げる地域づくりの中核リーダー育成プログラム」。その研修で5名で編成されたチーム内から、3団体の当アワード受賞団体が生まれた。今回はその縁を活かし、当アワードの魅力や今後の展開や改善点について本音で語ってもらう。

今回のインタビューにご協力いただいたメンバー

受賞団体1：一般社団法人 糸満市観光協会元職員 伊藤 憲翔（現 Agean 合同会社 / 写真左下）

2016年受賞「沖縄海人スピリッツ!!いとまん帆掛（ふーかき）サバニ乗船体験」

受賞団体2：株式会社南都・大城 宗久（写真左上）

2017年受賞「沖縄に残された最後のフロンティア 南の島洞くつ探検」

受賞団体3：Ageshio Japan 株式会社・古田 桂一（写真右上）

2020年受賞「世界でただ一つ！空手発祥地“沖縄”の空手ツーリズム事業」

司会進行：一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロ 酒井 達也（写真右下）

3人が参加した「稼げる地域づくりの中核リーダー育成プログラム」の運用責任者



スポーツ文化ツーリズムアワードへ応募した経緯

酒井「2018年に行われた研修の1チームから、スポーツ文化ツーリズムアワードの受賞が3団体も誕生しました。今回はその縁を活かし、本音でアワードを語ってもらおうという企画です。早速ですが、まずはじめに受賞した応募動機と事業内容についてお一人ずつお話をお聞かせ下さい。」

観光サービス構築による地域文化の保存が狙い。受賞で協力者が増加

伊藤「今は離れたのですが、糸満市観光協会在籍時の2016年に伝統漁船サバニの乗船体験で当アワードの1回目に受賞しました。糸満は平和記念公園など戦争関連のイメージが強いので、ポジティブな観光要素も欲しいなと思っていて。そこで、糸満市には海人（ウミンチュ）文化を代表する帆掛サバニがあるから、観光で活用することはできないかと考えていました。ただ帆掛サバニの作り手が減少しているという地域課題もありましたので、それもなんとかしたいと考えて立ち上げたのがサバニを活用した観光サービスでした。ただ、立ち上げに苦労して、お金も掛かるので、何か付加価値をつけたいと思い申請したのが当アワードです。」



夕暮時の海を進む帆掛けサバニ

— 酒井 「観光サービスで文化保存に繋げるのは素晴らしいですね。実際アワード受賞で何か変わりましたか？」

伊藤「最も変わったのは、受賞を機に協力者が増えた点です。翌年からはサバニのインストラクターも増やそうということで糸満市と協力して講習会や勉強会を開き15名程のインストラクターが生まれました。現在では糸満市を代表する観光サービスとなり、当初から活動していた方々を中心に帆掛サバニ振興会という団体まで立ち上がりました。また、受賞翌日のメディア掲載を見て、すぐに大手旅行会社からの問合せの連絡もあつたりしたので、効果は大いにあったと思います。」

職員へのコンテンツ価値の再認識と、競合との差別化が狙い。受賞でコンテンツへの自信に繋がった。

— 酒井 「大城さんはどうしてアワードへ応募しようと思ったのですか？」

大城「以前より知っていた伊藤さんが受賞したということを知り、このアワードに興味を持ちました。弊社の場合はアワードという第三者から評価を頂くことで、携わる職員がコンテンツの価値を再認識し、チームの結束や社内のムードを向上させたいという狙いがありました。また、洞窟探検というケイビングジャンルのコンテンツで申請したのですが、ケイビングは国内に多数あるので、その中で差別化したいという狙い

もありました。もちろん受賞後のメディア掲載などで、認知度アップに繋がりたいという面もありました。

— 酒井 「色々とメリットがあったと思いますが、その中で、一番良かったと思うのは？」

大城 「社長含め、社内が盛り上がったことです。特に受賞した翌日にメディアで掲載されてからは、取引先の方々をはじめ、周りの多くの方々から「凄いね」「おめでとう」と言われることが多く、その効果を非常に感じる機会がありました。

1986年から提供し続けてきているサービスですが、私をはじめ社員一同資源の魅力を再認識する良い機会になり、改めてコンテンツへの自信に繋がったと思います。」



2017年(株)南都受賞時のアワード受賞式

— 酒井 「まずはこの度の受賞おめでとうございます。早速ですが、当アワードに応募したきっかけを伺っていいですか？」

認知のないツーリズムには当アワードの冠は魅力。受賞直後の反響が大きかった



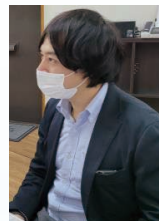
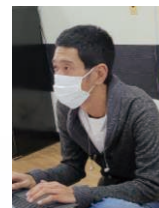
古田 「ありがとうございます。私は研修時に同じチームだった2人から「Ageshioさんにぴったりのアワードがあるよ」ということで当アワードのことを聞き、本業の空手ツーリズム事業で今年受賞しました。空手ツーリズムは空手発祥地の沖縄県内では知られてきたのですが全国的にはまだ認知が非常に低いため、アワードを取ることで認知度を高めることと、空手ツーリズムのイメージアップを目的に申請しました。受賞して間もないので効果については言いづらいのですが、2月10日の受賞発表後に県内の新聞記事掲載による反響が非常に多く、その点はとても効果を感じています。」

スポーツ文化ツーリズムを推進していく上で、とても魅力があり、価値のあるアワード

伊藤 「自分たちの場合もそうでしたが、スポーツや文化をテーマにしたツーリズムの場合、市場からは馴染みの薄いツーリズム商品なので、立ち上げ時に苦労するケースが多いと思うんです。そうした中で観光庁・スポーツ庁・文化庁というそれぞれ知名度のある行政機関が連携を図り共同開催するこのアワードが持つ価値は高いと思うし、これからのスポーツ文化ツーリズムの推進に果たす役割は非常に大きいと思います。」

大城 「国の観光アワードの受賞は、地方観光で非常にインパクトがあると思います。弊社の場合だと、せっかくの機会なので受賞をPRに活用したいと思い、こういうチラシを作ったのですが、営業担当からとても好評でした(次頁参照)。」

古田 「アワードを目指すというのは明確な目標になるし、サービスの見直しにも繋がるので、取り組みとしてとても良かったです。このアワードはスポーツや武道・食を含む文化にターゲットを絞っているため、そうしたサービスを扱う事業者には本当にありがたいアワードだと思います。」



— 酒井 「広い面において当アワードの魅力や、有用的な価値を感じることができました。ありがとうございます。」

3庁連携した取り組みにしては認知が低い。メディアへも積極的に働きかけてほしい。



— 酒井 「いい面だけでなく課題も掘り下げていきたいのですが、このアワードに関して課題として感じる点はありますか？」

大城 「一番の課題は、価値あるアワードなのに、そのこと自体が知られていないという認知度の低さだと思います。受賞後に色々な旅行関係者から連絡をもらったのですが、ほとんどの方がこのアワードを知らない状況でした。3庁共同開催の聞こえの良い賞なので、もっと認知されていいはずですが、また、受賞に対してのメディア露出も少ないと思います。

認知に繋がるチャンスとして、3庁のネットワークを活かして、メディアにも積極的に働きかけていって欲しいですね。そうすることで、もっとこのアワードの認知度を高められると思います。」

伊藤「今回5回目で受賞事例も溜まっているので、その事例を活用したプロモーションビデオや専用ホームページなんかあってもいいかなと。毎年の受賞を決める単年での取り組みに終始している感じがするので、アワードの価値や認知度を高めるための長期的な視点での取り組みも大事だと思います。」



受賞メリットの訴求や受賞後のアフターフォローの仕組みも重要

古田「あとは受賞メリットも分かりづらいと思います。私は身近に受賞団体が2名いたので、直接聞いてメリットを感じてましたが、現在の告知ではロゴを3年間使える点くらいしか訴求されてなくて、勿体無い気がします。」

大城「弊社も伊藤さんも受賞メリットは大いに感じています。具体的なメリットを掲示しづらいのであれば、当年受賞団体だけでなく、もっと過去の受賞団体からもヒアリングして、受賞団体の声を通じてメリットを伝えることを検討してもいいと思います。」



伊藤「もう一つ、受賞団体を選んで終わりになってしまっている感があると思います。受賞時にはメディアに取り上げられて大きく騒がれるのですが、その後の効果はそこまで大きくなかったように感じます。アワード受賞で団体側は盛り上がるので、それを機により良いサービスへと繋がるようなアフターフォローに繋がる仕組みもあると、より魅力的になると思います。」

大城「確かに受賞後も効果を感じられる施策があるといいですね。専門家派遣みたいなメリットがあってもいいし、受賞からある程度時間が経過した後でのメディア掲載が難しいようであれば、JNTOのホームページで特集を組んで紹介してもらおうとか、そういう施策もメリットがあると思います。あとはやはり受賞を決めるだけでなく、体験しないと価値を分かりづらい部分もあると思うので、受賞団体を体験してもらう機会も作ってほしいという気持ちもあります。」

— 酒井「おきなわワールドさんのケイビング体験に、弊社職員が参加させて頂いたのですが、ものすごく評判が良かったんです。確かにそういう体験機会も大事ですよ。」

アワードの認知向上に向けて DMO との連携も効果的

酒井「弊団体は沖縄県の広域 DMO になっているので、その役割上、省庁と連携することも多いです。DMO は各地方の観光関係者と繋がっているし、広域 DMO であれば沖縄観光コンベンションビューロも含めて全国に 10 件しかないの、まずはそこと連携することは認知度向上や申請数増加には非常に役立つと思います。そうした連携をすれば、各 DMO が行う施策に受賞団体の情報を反映させることにも繋がると思います。また弊社では、会員向けの月刊紙も発行していますし、アドベンチャーツーリズムを推進して研修も行なってますので、まずはそういった点での連携を図りたいと思います。当アワードと DMO 連携の推進に向けて、弊社としても取り組めることを検討していきますね」

大城「沖縄から、そしてなんのご縁か研修でのチームから 3 団体も受賞が生まれたので、ぜひ沖縄からスポーツ文化ツーリズムアワードを盛り上げていきたいですね。」

— 酒井「最後に、3 庁やこの報告書を読まれている方へメッセージをお願いします。」

伊藤「本当に価値あるアワードだと思うのですが、今の認知度ではもったいないです。是非、事業者側が応募したいと思うアワードとなるよう、3 庁の連携を生かして価値を高めてほしいです。」

大城「当たり前のように取り組んできたことが、実は貴重な取り組みであると再認識できる機会になりました。受賞を目標にチームの結束が強くなり、自分たちの提供するコンテンツに誇りを持つことにも繋がりますので是非応募してみてください。今年も 4 月 1 日から 洞窟探検の予約を受付します。那覇空港から 30 分の場所で本格的な洞窟探検ができますので、是非沖縄に来る機会があれば体験してみてください。」

古田「私が 2 人から聞いて関心を持ったように、受賞団体からの紹介は非常に効果的だと思います。このアワードが盛り上がりれば受賞団体にもメリットがあるので、受賞団体からも発信していけるといいなと思います。」

— 酒井「我々からもこのアワードを盛り上げていきたいですね！今日はみなさん、ありがとうございました。」